

## 校長研修だより179

### シリーズ「授業風景7」

～「人権学習」の実際～

2024・12・11 重枝 一郎

「ラスト1分」。重枝先生の声が響きます。

「それでは発表してもらいます。発表するグループの方を見てください」

最初の班が発表します。

書き上げた模造紙を見せながら、発表していきます。

「嬉しいことは、大丈夫のような励まし言葉や、ありがとうなどのお礼言葉、がんばったねなどの応援言葉、などの言葉です。嫌な気持ちになるのは、悪口や暴力、仲間はずれ、無視、いじめなどです。これで発表を終わります」

拍手・・・・・・・・

「ありがとう。発表する前に、先生が班長に何て言ったか。模造紙に書いたことを全部読むんですかって質問されたので、自分でまとめて発表するように言いました。まとめてたよね。嬉しいことはこういうことで、嫌なことはこういうことですから、上手にまとめていました。そして、班長が安心して、落ち着いて発表できたのは、みんなが、いい顔でしっかり聞いているからです。ここが大事なところ。では、次の発表をお願いします」

重枝先生は、発表の仕方を確認し、聞く態度をほめました。

「言われなくてもグループ全員が立って、二人が模造紙をもって、みんなが見える位置に立ちますよ」。重枝先生が、「協力」「相手意識」を促します。

次々と発表が終わります。

重枝先生は、体育館いっぱい広がっている生徒の間を動きながら、模造紙に書かれた言葉を読み上げます。

「消えろ、死ぬ、キモい、暴力、ブス、どっかいけ、学校来るな、消えろ、無視、デブ、いじめ、くさい、チビ、バカ、ガリ、しゃべるな、くず、おまえこの世に必要な、アホ、かげぐち、だまれ、むかつく、けつとばされる、たたかれる」

「こんなこと、毎日毎日、言われたら・・・恐ろしいよね。もし先生がみんなと同級生で、このメンバーの中のひとりで、毎日みんなからそんな風に言われたら・・・。ここにいることが耐えられないという気持ちになる。今、みんなには、そこまでの危機感はないかもしれない。でも、もしかしたら、本当にそういう風に言われて困っている人がいるかもしれない。そういう友だちが、いたとします。これはいいこと、悪いことってみんながわかっているけれど、もしかしたら救われるかもしれない。

この瞬間から、みんなが人への接し方を考えてコミュニケーションをとるようになれば、それが、班からはじまって、クラス、学年へと広がっていけば、みんなは本当に、理解したことになる。まだ、書いただけでは、したことにはならないんです。これからの行動が大切なんです。

最初に〇〇君とした、言葉のキャッチボールを思い出してみてください。言葉が強すぎてダメなんです。思いっきりぶついたらダメです。無視したら、もっとキツイこともわかったよね。相手の気持ちを考えて、心を込めてキャッチボールしないと、ダメなんです。でも、『私はきちんとしているのに、きちんとしてくれない人がいます』って言う人が、必ず出てきます。『セーの』で一斉によくなれば、言うことないけど、なかなか、そううまくいかないのも現実です。だから、一人一人がビーイングシートの身体の中に書いた言葉を意識してつかっていくことが大切です。

中には、言葉ではうまく言えないけれど、気持ちはあるという人がいます。中学生の時期は、そういう人が多いんです。また、中には、しゃれたことは言うけど、気持ちはぜんぜんないという人もいます。

自分のためにも、相手のためにも、そして、みんなのためにもなるコミュニケーションをしていこうという気持ちを大切にしてほしい」

長い長い、重枝先生の語りに、生徒は真剣なまなざしで聞き入っています。そして、重枝先生の最後のまとめに入っていきます。

《次回8に続く…》